未来型図書館つながるミーティング

～本づくりワークショップから図書館を構想しよう～

【第5回】

2023年2月5日（日）

未来型図書館つながるミーティング
～本づくりワークショップから図書館を構想しよう～［第5回］

1. 挨拶	13:30-13:35 （5分）
2. オリエンテーション：arg	13:35-13:55（20分）
・方向性・目的の共有	
・第1～4回の振り返り	
・ビジョン・コンセプト案について	
・ともにつくる“本”について（“本”の概要、イラスト協力：牧田さんの紹介）	
・妄想ストーリーづくりの方法・ポイント	
3. 対話「対話と活動の記録である「本」の活用について」作戦会議をしよう」	
・本の活用についての作戦会議 ［グループ］	13:55-14:55（60分）
（休憩：10分）	
・共有 ［全体］	15:05-15:25（20分）
・本のタイトルの投票 ［全体］	15:25-15:45（20分）
4. わたしにとっての「未来型図書館」の共有・撮影 ［グループ］	15:45-15:55（10分）
5. まとめ・集合写真	15:55-16:00 （5分）

オリエンテーション

図書館の可能性

安らぐ

解決する

知る

遊ぶ

つながる

つくる

学ぶ

表現する

見つける

体験する

「未来型図書館」ができることで

小松市というまちは、

わたしたちの暮らしは、

どう変わっていくのだろうか？

「未来型図書館」ができるまでの道のり

＜わたしたち＞にとって
「未来型図書館」とは何か

未来型図書館のあり方に
関する調査研究報告書

基本構想

基本計画

設計・工事
管理運営検討

開館

＜わたしたち＞にとって「未来型図書館」とは何か

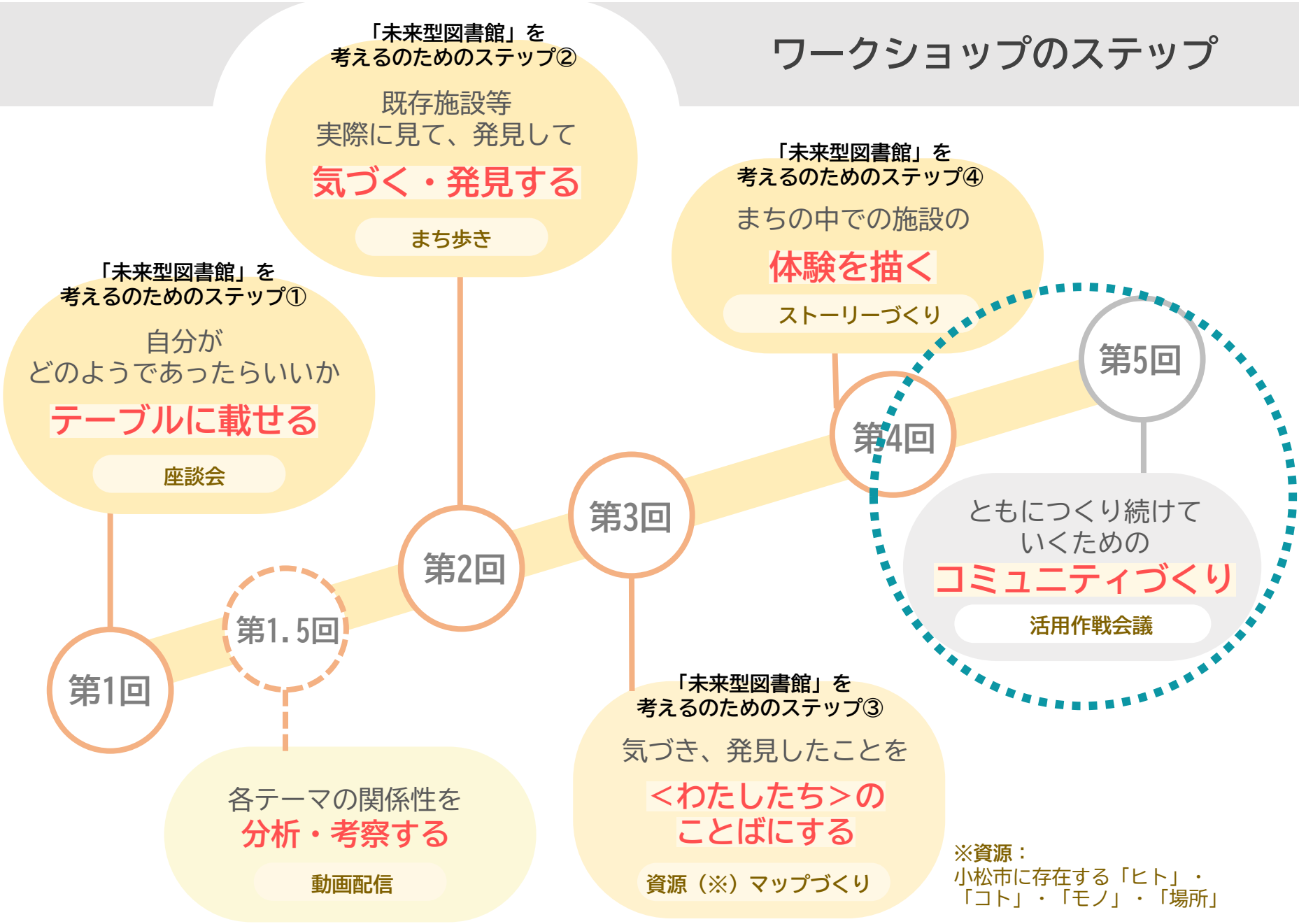
「未来型図書館」ができることで、**小松市というまちは、**
わたしたちの暮らしは、どう変わっていくのだろうか？

それを考えるために

小松市という
まちのことを
知る

＜わたしたち＞
自身のことを
知る

ワークショップのステップ



※資源：
小松市に存在する「ヒト」・「コト」・「モノ」・「場所」

7月　　9月

1　2　3

自分が
どのようであったらいいか
テーブルに載せる

座談会

開催済み！

第1回

「未来型図書館」を
ともに描いていくための“視点”を見つける

思いをテーブルにのせ
テーマを設定しよう！

第1回対話の様子

グループ 6
対話②「テーマについてさらに深堀りしよう」
テーマのもとで
「「未来型図書館」と小松市にどんな可能性があるか」
問い1
どんなことができるといいか？
それをするために、
まちにはどんな場所があるか？
／どんな場所が足りないか？
ハードルがあるか？

A
グループ
対話①「それぞれの思いを共有しよう」
「未来型図書館」ができることで、
小松市というまちで、自分がどんなことが出来るようになるといいか

7月　　9月

1　2　3

既存施設等
実際に見て、発見して
気づく・発見する

まち歩き

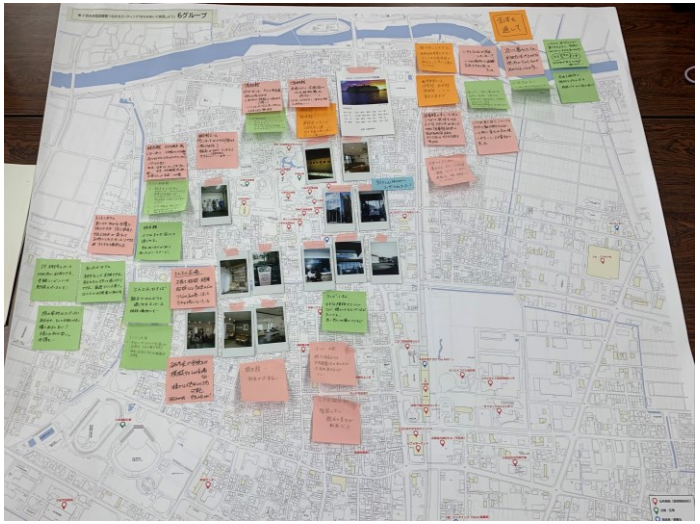
開催済み！

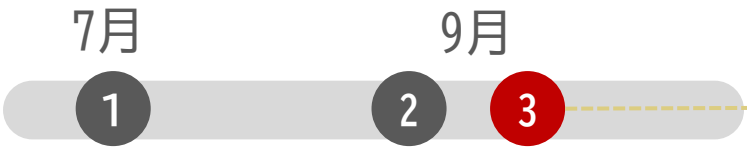
第2回

小松市に存在する（もしくは足りない）地域資源（ヒト・モノ・コト）を見つける

まちを歩いて発見しよう！

第2回対話の様子





気づき、発見したことを
＜わたしたち＞の
ことばにする
資源（※）マップづくり

開催済み！

第3回

※資源：小松市に存在する「ヒト」・「コト」・「モノ」・「場所」

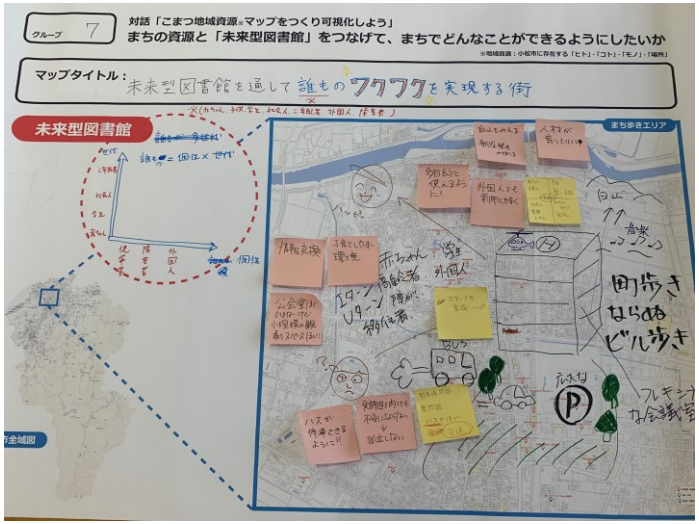
まちの資源※と「未来型図書館」をつなげて、まちでどんなことができるようにしたいか

「こまつ地域資源マップ」をつくり可視化しよう！

※**地域資源**：小松市に存在する「ヒト」・「コト」・「モノ」・「場所」

第3回対話の様子

グループ 3
対話「こまつ地域資源＝マップをつくり可視化しよう」
まちの資源と「未来型図書館」をつなげて、まちでどんなことができるようにしたいか
マップタイトル：
未来型図書館を通して『参画型ネットワーク』が実現するまち小松マップ
未来型図書館
まち歩きエリア


グループ 7
対話「こまつ地域資源＝マップをつくり可視化しよう」
まちの資源と「未来型図書館」をつなげて、まちでどんなことができるようにしたいか
マップタイトル：
未来型図書館を通して誰ものワクワクを実現する街
未来型図書館
まち歩きエリア
町歩きならぬビル歩き

各回の対話から

＜第1回結果より＞

住民主体のまちづくり

色々な仕事について、学び知る場が欲しい

小松のいろいろな資源をまとめて知ることが出来る

インクルーシブな社会のお手伝い

地元の歴史を知るために自分の知識を入れる

成長し続ける、学び合う

まちの中で起こっていることを発信できる

まちづくり活動の拠点として議論する場。
課題→行動

様々な人・コトとつながる

高齢者が気軽に困りごとを頼めるような
支援体制づくり

＜第2回結果より＞

各施設を巡る・歩ける「しかけ」が必要。

他の施設とのつながりや交流を持たせるなどまちや地域全体で相乗効果を生み出せるような仕組みなどが必要

デジタルに触れたいが触れられない
シニアにいかに伝えるかも課題

＜第3回結果より＞

「核」としての新しい施設から、各施設をつないでいくことが大切。

市民参加型のネットワークへとつなげたい

世代を超えてつながり、お互いの良いところを活かしあう

過去からの繋がりを感じながら、
未来を描いていける場所

4つのポイント

未来型図書館ができることで
小松市というまちがどのようになっていくと良いか、
みなさんが根底で共通して願い、期待していること

1
魅力や良さを活かし、
まちを元気な状態にしていく

2
自らの手で
社会のあり方や関係性を
よりよくつくっていく

3
人や情報がつながることで
未来にわたって
生き生きとした循環を生み出す

4
すべての人にひらかれ、
その営みを支えていく

ビジョン・コンセプトとは

ビジョン

将来あるべき姿を描いたもの。大切にする価値観。
→未来型図書館ができることで、まちや暮らしで実現させたいあり方

こまつを編む。
こまつを巡らす。

ーまちの「情報」・まちの「つながり」・まちの「とき」ー

編む

まちの中にある多様な資源を結び付け、価値を生み出しながら、小松の人々が自らの手で、小松というまちを編み上げていく。

巡らす

人・文化や歴史・情報・活動・経済等、様々な要素が、地域において将来にわたって循環し、連鎖し続け、生き生きとしたよりよいまちのかたちや暮らしを持続的につくっていく。

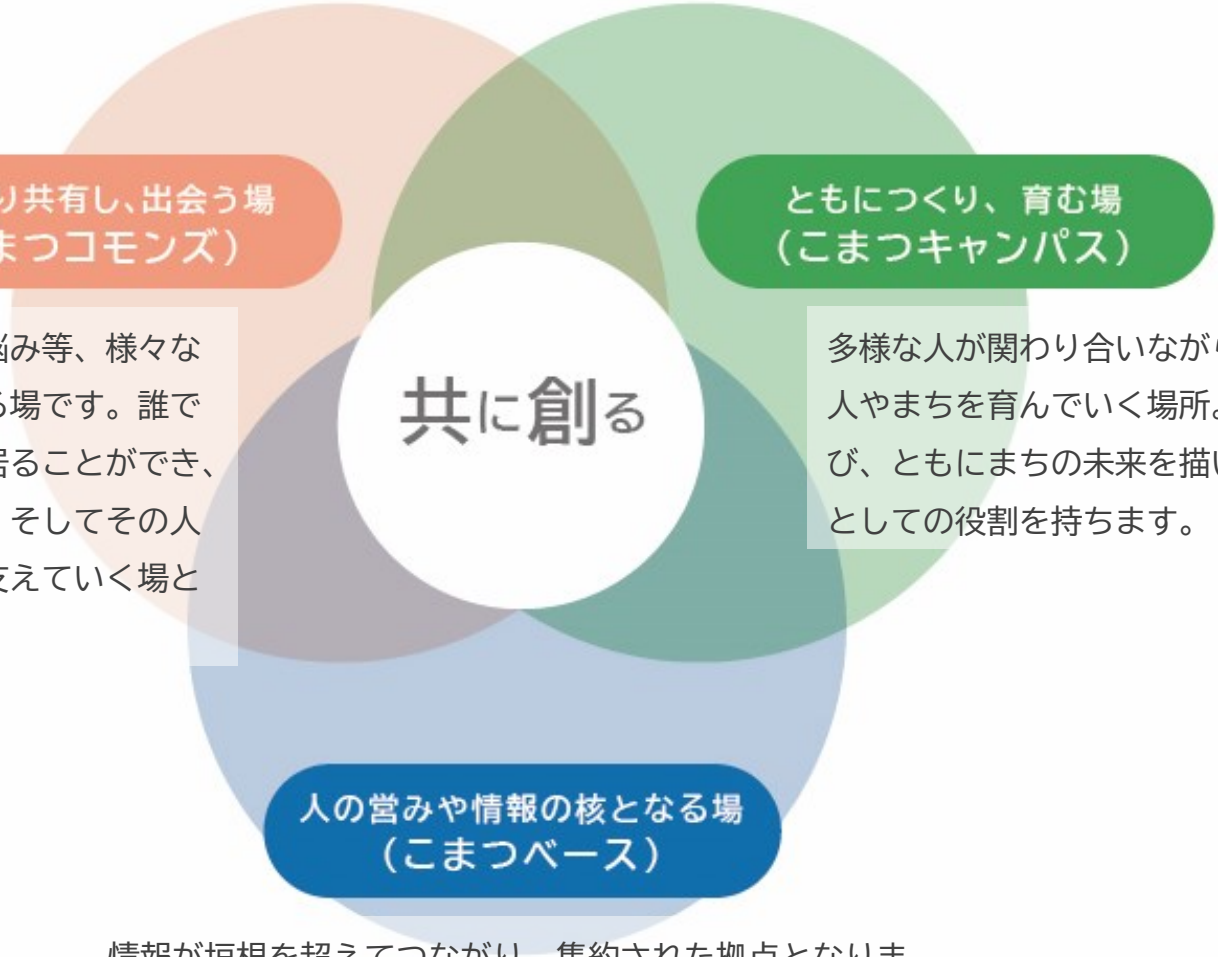
情報
多様な形態、種類、内容の情報を、その垣根を超えてつなぎ、新たな価値を生み出していく。

つながり
多様な人、地域、文化など個々の特徴を活かしながら関係性のつながりをつくり、動かしていく。

とき
まちの歴史のなかにある資源（ヒト・モノ・コト）を掘り起こし、未来へつないでいく。

コンセプト

ビジョンを実現する具体的構想。「何を提供するか」→施設が担っていくこと



人々が、得意なことや悩み等、様々なものを持ち寄り共有する場です。誰でも分け隔てなくそこに居ることができ、人が集まり出会うこと、そしてその人たちがやりたいことを支えていく場としての役割を持ちます。

多様な人が関わり合いながらつくり、人やまちを育んでいく場所。ともに学び、ともにまちの未来を描いていく場としての役割を持ちます。

情報が垣根を超えてつながり、集約された拠点となります。地域資源（ヒト・モノ・コト・場所）のむすびつけ、編集して活かしていくまちの核としての役割を持ちます。

未来型図書館に考えられる役割（機能）

7月　9月　12月

1　2　3　4

まちの中での施設の
体験を描く

ストーリーづくり

開催済み！

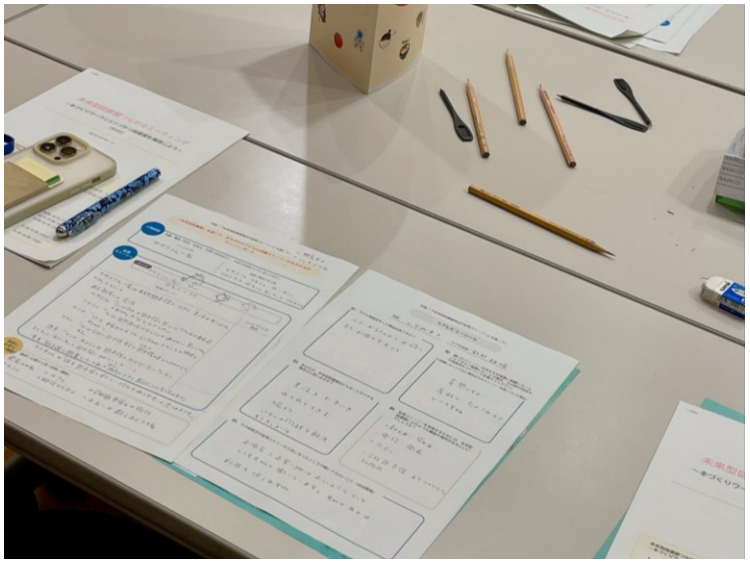
第4回

※**資源**：小松市に存在する「ヒト」・「コト」・「モノ」・「場所」

「未来型図書館」を通して、まちのなかで
どんな体験ストーリーが生まれるか

「未来型図書館周辺の妄想ストーリー」
を描こう

第4回対話の様子



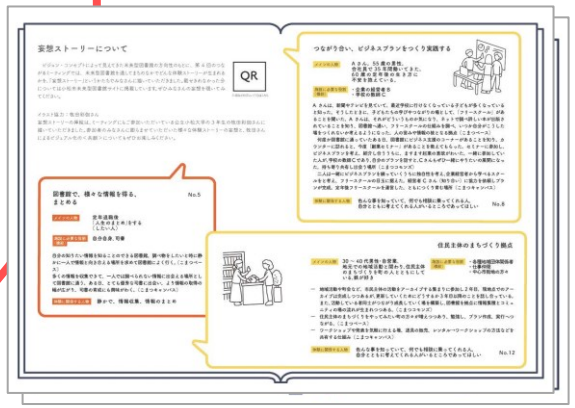
「ともにつくる図書館をつくる」
一つのステップとして、
これまでのワークショップを一冊の本にまとめます

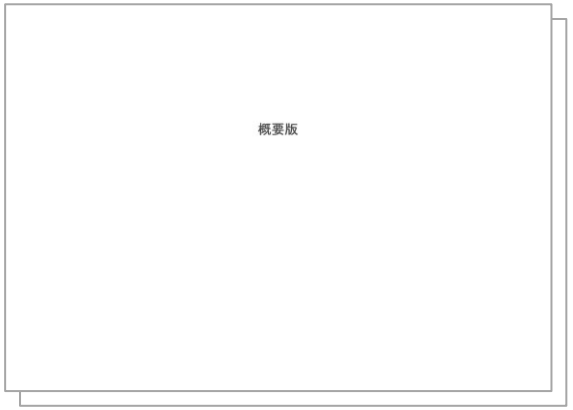
自ら編集し、発信していくメディアとしての図書館

＜わたしたち＞の未来型図書館とつくるために
ともに知り、ともに考えたことを
本というかたちとしてつくり、その先のステップにつなげていきます

いよいよ3月末に
小松市未来型図書館基本構想も
策定予定です！

ここまでの
取り組みを
「本」のかたちに
取りまとめています





7月 9月 12月 2月

1 2 3 4 5

ともにつくり続けて
いくための
コミュニティづくり

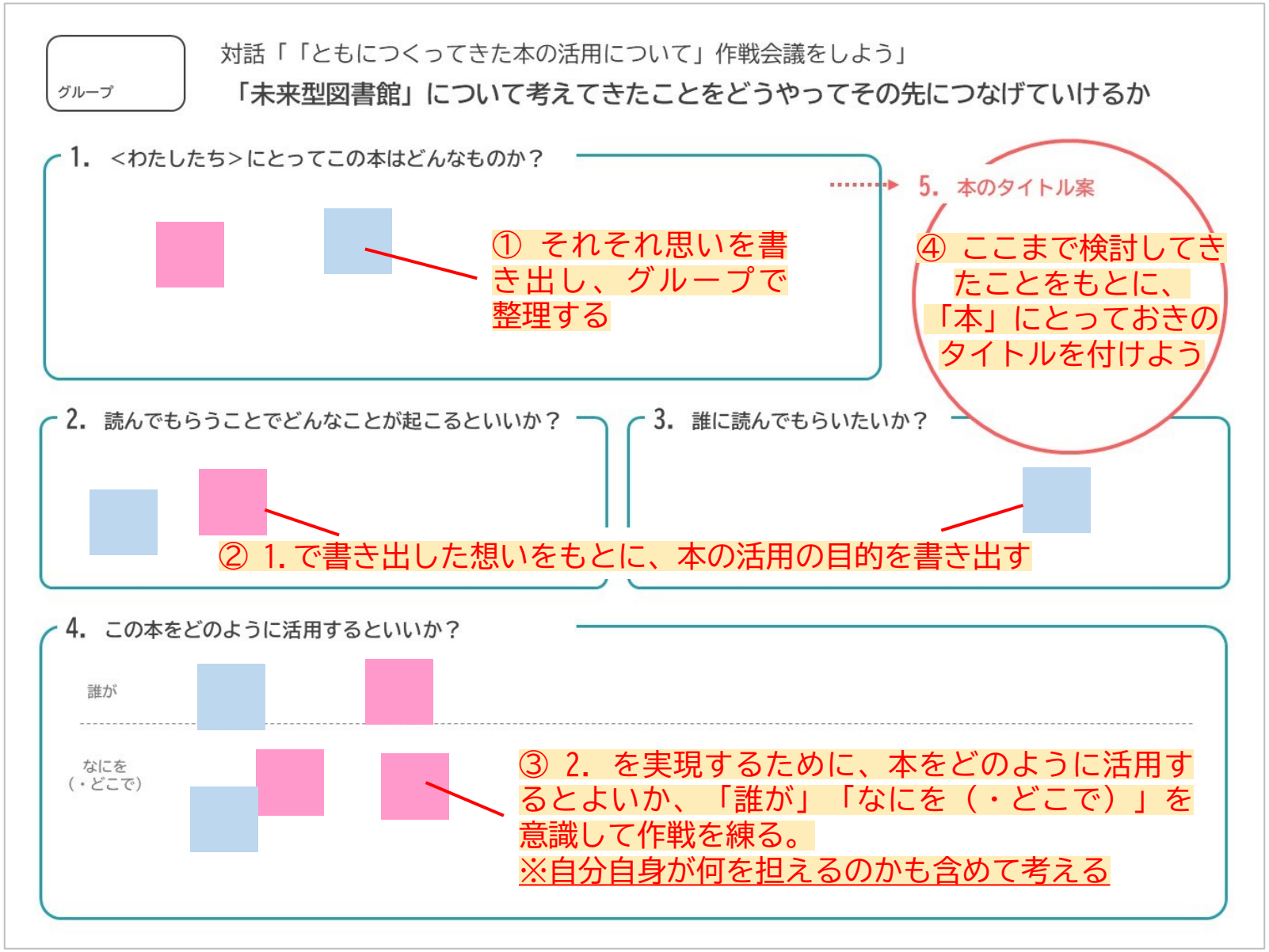
活用作戦会議

第5回

「未来型図書館」について考えてきたことを
どうやってその先につなげていけるか

「対話と活動の記録である「本」の活用について」
作戦会議をしよう

3. 対話「対話と活動の記録である「本」の活用について」作戦会議をしよう（60分）



本の活用について
作戦会議をしよう！

みなさんに考えてもらった「活用の作戦」の中から、
より＜共創＞的な方法について、実際にみんなで実践していきます。

※みなさん自身が主体となって展開させていくことも大歓迎です。

活用検討の視点

1. 「本」の読み方・使い方

「本」はどのように読んでもらいたいか。また、読んだ人にどのように使ってもらえると良いかを考える。

2. 「本」の頒布の工夫

「読んでもらいたい人」に届かせるために、この「本」の頒布方法をどのように工夫すればよいかを考える。

3. ＜共創＞を実感するための取り組み

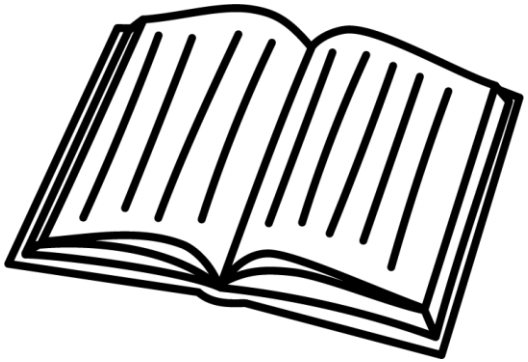
つながるミーティングに参加した人以外にも＜共創＞を実感してもらうためにはどんな取り組みを行うと有効か考える。

【参考】
活用の
一例

＜本の活用＞

まずは、図書館の展示から
考えてみよう

みんなでつくった本を展示してみる



1. 参考資料として
どんな本を一緒に
展示するとよいか

2. 本以外に、
どんな資料を
展示するとよいか

3. ブックトラックを
使って、実際に
展示してみよう

「本」の
タイトルを付けよう！

対話と活動の記録である「本」のタイトルをみなさんで名付けてみてください。
最後に各タイトル案に対して、全体で投票し「本」のタイトルを決定します。

【参考】
タイトルの
つけ方の
パターン例

1. グループ・団体名をそのまま活用する

グループの名前をそのまま活用して名前の前後に広報誌らしい言葉をつける
（例）「〇〇便り」、「〇〇タイムズ」、「〇〇の歩み」　等

2. 「本」の目的をタイトルにこめる

発刊するにあたってのテーマや目的をタイトルに込める
（例）「絆」、「スマイル」、「冒険」　等

3. 取り組みの理念（テーマ）をタイトルに活用する

グループで共有している活動理念（テーマ）を活用する
（例）「夢を形に」「成長と挑戦」、「創造」　等

4. ポジティブな言葉の中からタイトルを選ぶ

誰が聞いても明るい印象を持つポジティブな言葉の中から
タイトルを選ぶ
（例）「青空」、「SMILE」　等

参考：https://deal-always.com/pr-magazine-title#1-1

【参考】
小松市の
実例

『KOMATSU STONE BOOK』（2016年、小松市役所 観光交流課）

小松市役所 観光交流課様が発行するパンフレット。小松が長き時の中で磨き上げてきた石の文化・高度な加工技術など、様々な魅力が発見できる。

出典） 小松市| https://www.city.komatsu.lg.jp/material/files/group/13/komatsu_stone_book.pdf
（最終閲覧日：2023年1月16日）

【参考】
他自治体の
実例

『すかがわ、めぐるめく』（2016年、須賀川市）

「須賀川市民交流センター」のオープンに向け、多くの人に
関心を持ってもらい、利用してもらうために刊行されたPR冊子。

出典）須賀川市民交流センターtette|「すかがわ、めぐるめく」
https://www.city.sukagawa.fukushima.jp/bunka_sports/tette/tette_megurumeku/index.html（最終閲覧日：2023年1月16日）

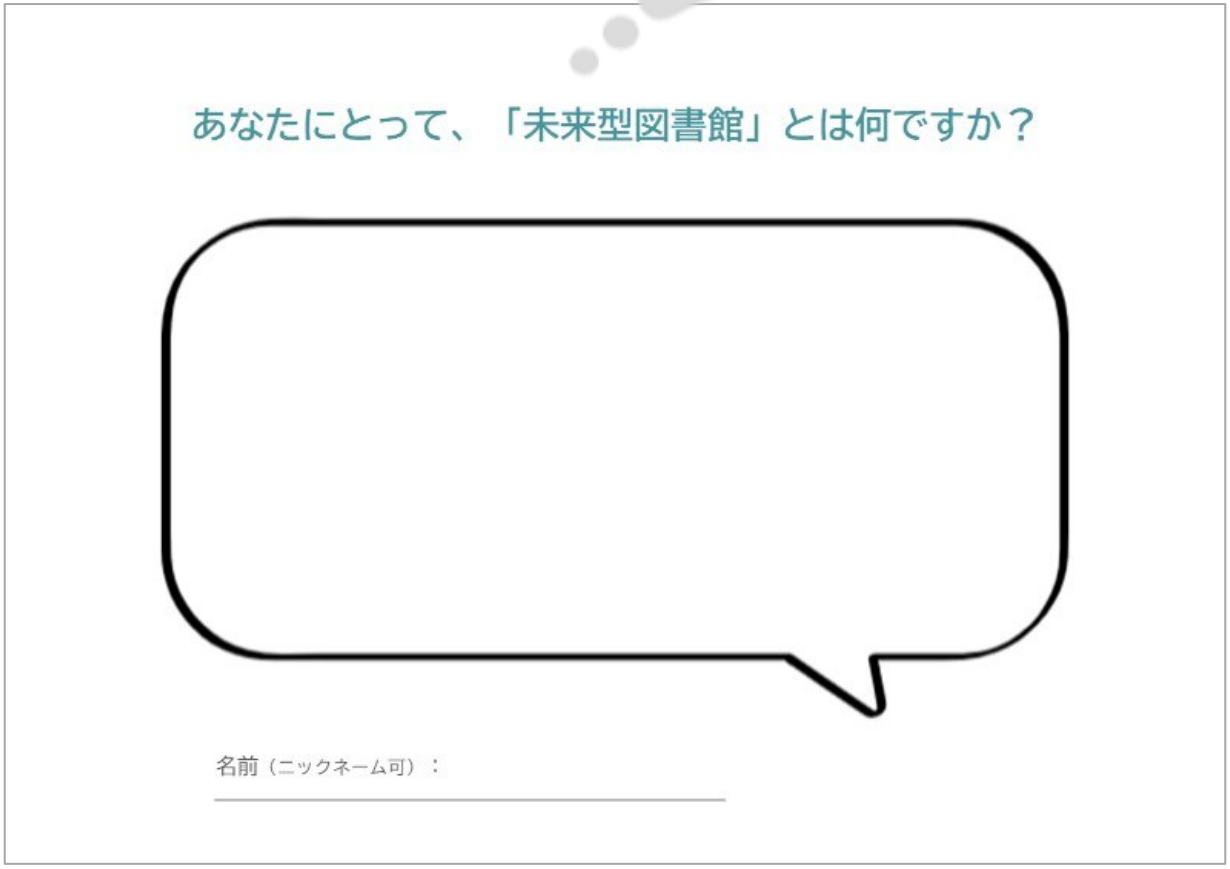
本のタイトルの投票

お願い

あなたにとって

「未来型図書館」とは何か？を

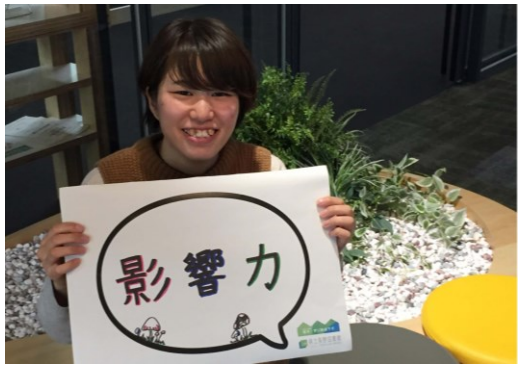
一言で 教えてください！

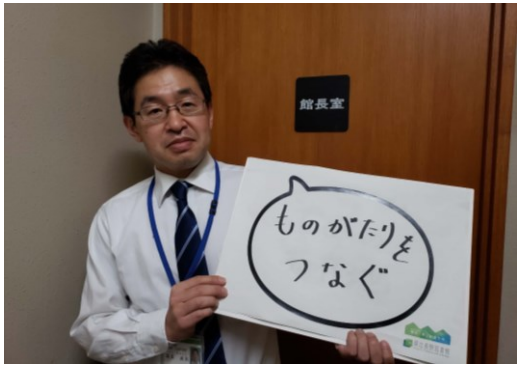


参考
イメージ

Library of the Year2019　県立長野図書館プレゼンテーション資料より

「あなたにとって県立長野図書館とは」





わたしにとっての「未来型図書館」の共有